

博物館と吉川英治記念館と紅葉の多摩川を歩く

多摩川遡上第5弾の記録



記録者 川崎の産業観光を支援する会 根岸 雅明

2021.11.26

多摩川遡上の旅 138 キロの第五弾の記録

【概要】 2021年5月1日に多摩川遡上第4弾を歩き、今回は第5弾として青梅駅から御嶽駅までの多摩川沿いを10キロ歩きました。河口からトータルで71キロを踏破したことになる。多摩川の全長138キロの半分に達しました。

小春日和のなかとても気持ちのいい散歩でした。郷土博物館の庭の柿の実、吉川英治記念館の趣のある庭園の木々、溪谷沿いに真っ赤に色づいたモミジ、白く波打ちながら流れる多摩川の水、家々の庭に植えてある黄色く色づいたユズの実、御嶽駅前の夕日が山影に沈む景色。どれもこれも素晴らしい風景でした。見どころいっぱいでした。

岡本かの子の「多摩川の 清く冷たく やわらかき 水の心を 誰に 語らん」の詩は本当だなぁ。と実感しながら歩きました。

皆さんとおしゃべりしながら郷土博物館の展示物や吉川英治記念館を見学したり、街道沿いにある地域の鎮守の神社にお参りしたり、コーヒーブレイクととても楽しい歩きでした。そして沢山の発見や気づきがありました。

第6弾以降は多摩川の溪谷も深くなり、なかなか厳しい歩行となると思いますが、なんとか全長まで踏破したいですね。

また皆さんと楽しく歩きたいですね。西山リーダー、小倉さんありがとうございました。

【日付】 2021年11月26日（金）晴れ

【目的】 多摩川138キロを歩く。青梅駅から御嶽駅まで多摩川沿いを約10キロの歩き。

【メンバー】 西山孝、小倉幹子、根岸雅明

【アクセス】 阪東橋 7:23→7:32 横浜 7:38→7:50 武蔵小杉 8:02→8:48 立川 8:57→9:29 青梅 帰り

御嶽駅 1:33→青梅→立川 17:35→武蔵小杉 18:34→横浜 18:52→19:01 阪東橋

【費用】 交通費（@1,100+1,270=2,370）

雑費 500+120+500+1,000+450=2570

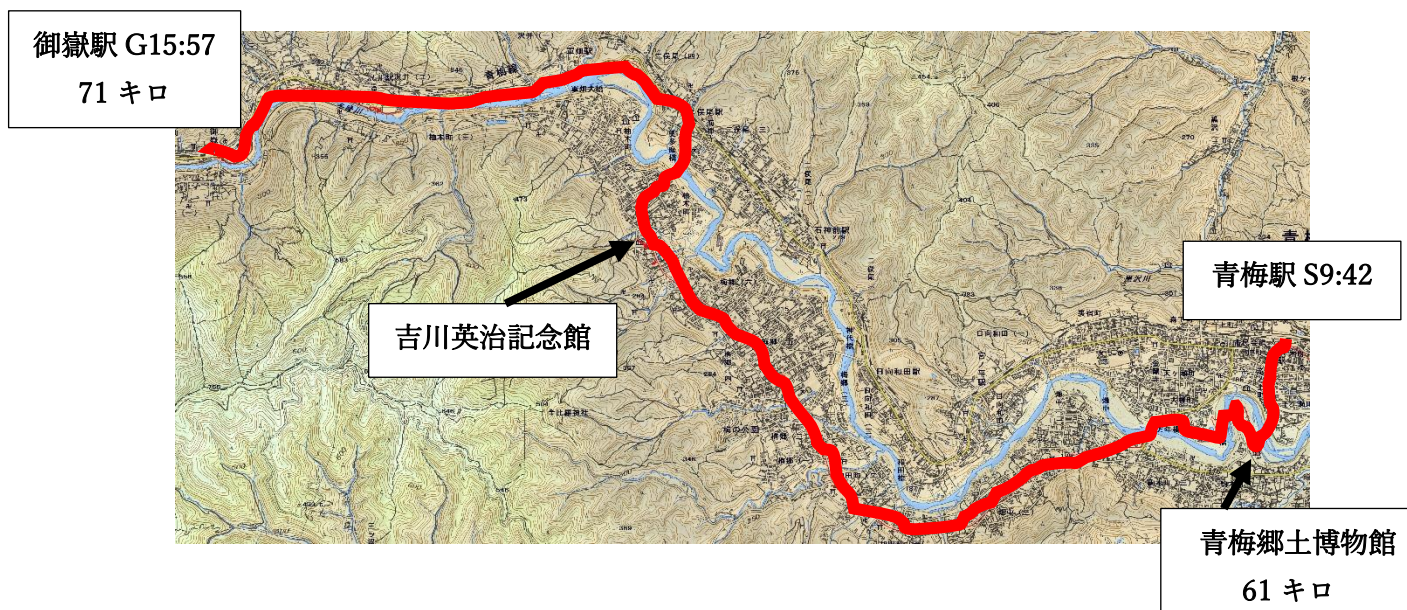
合計 4,940 円

【コース概要】 青梅駅 S9:42→青梅郷土博物館→柳淵橋→万年橋→吉野街道→畑中神社→稲荷神社→手打ちうどん（ランチ休憩）→吉川英治記念館→奥多摩橋→青梅街道→JR 二俣尾駅→軍畑大橋→御岳溪谷遊歩道→澤乃井園（コーヒー休憩）→15:57 御嶽駅 G

【行動時間】 約6時間17分

【歩行距離】 ガーミンデータ 11.4 キロ。1日の歩数 23,000 歩（スマホデータ）

【地図】 歩行全体図



前回歩いた多摩川河口からの距離呈 61 キロをスタートし御嶽駅までの距離呈 71 キロを歩く。多摩川全長 138 キロのうち半分を歩いたことになる。



第 4 弾で歩いた距離呈 61 キロ



御嶽駅前の距離呈 71 キロ

【写真】

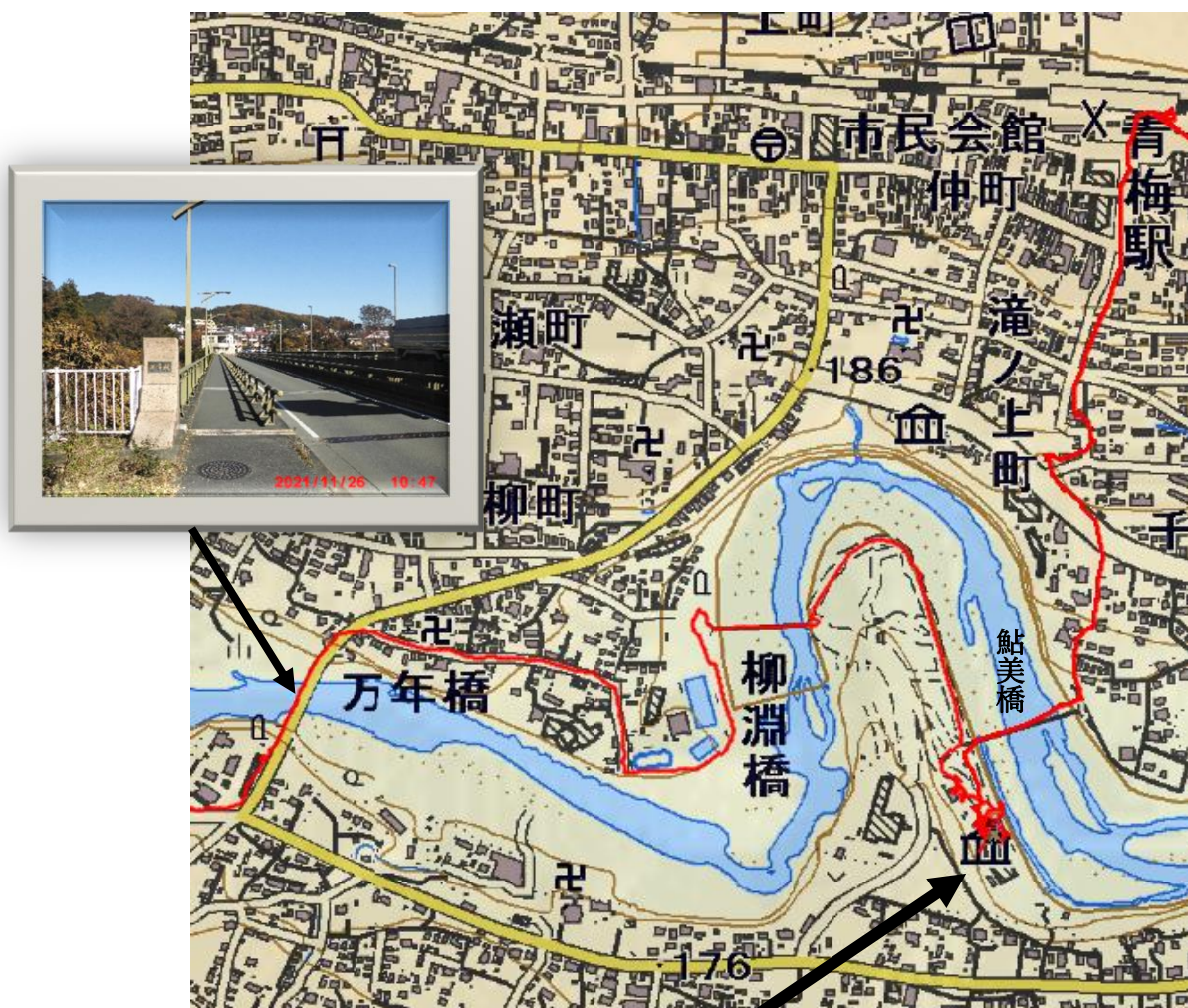


青梅駅前のモスバーガーでお茶をして、これから先の行程の打ち合わせをしてスタート。西山さんお薦めの郷土博物館、吉川英治記念館が楽しみだ。



鮎美橋を渡り郷土博物館に向かう

青梅郷土博物館を見学。赤い線が歩いたルート。ガーミンデータより。



青梅郷土博物館

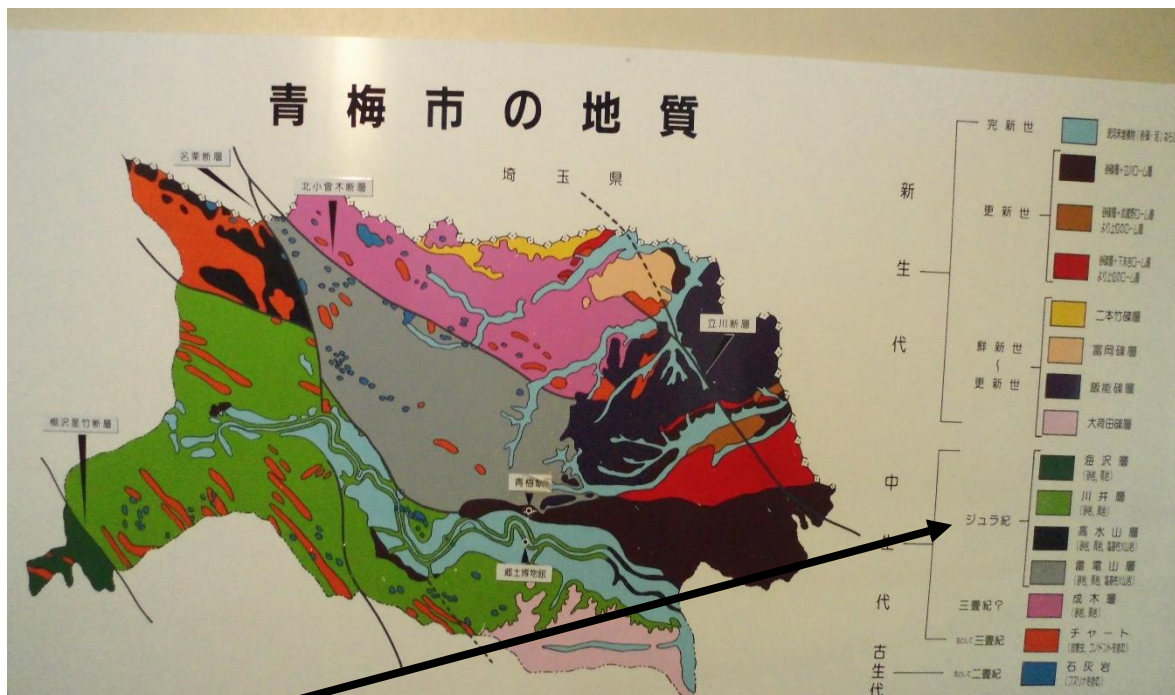


つつじの帰り花



館内に入る前の庭に大きな樽が展示されていました。
醤油用の仕込み樽だそうです。深さ 170 cm、直径 190 cm、容量 4240 ℓ

一番関心があったのが地形と地質です。青梅の成り立ちを知りました。



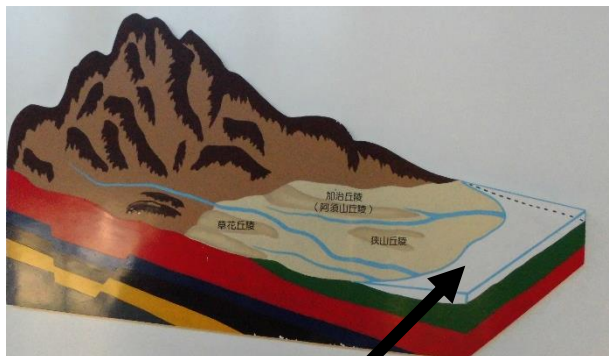
青梅の地質は秩父帯のジュラ紀から前期白亜紀の付加体、四万十帯の後期白亜紀の付加体から構成されているという。

*付加体とは。大陸プレートと海洋プレートが衝突を繰り返しながら堆積物や岩体を巻き込み帯状にプレスしてできた岩体。熱を加えて変成されたりして変成岩に変化していく。説明書きとネットより参照。

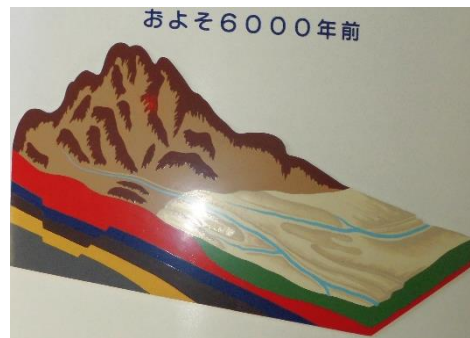
今から 200 万年前から 50 万年前はこの地域の海岸線は海拔 180m 付近にあったという。ここの郷土博物館の標高が 180m ほどであるので、この辺は海岸線だったようだ。

昭島ではクジラの化石が見つかったというから驚きですね。第3弾の歩きの時に昭島のマンホールのデザインがクジラだった事を記憶している。西山さんからここは 200 万年前のクジラの化石が見つかった場所だと教えてもらった。

青梅は多摩川の扇状地で大小の河川に形成された段丘上には、旧石器時代から人々の営みをみられるとの事。今も昔も変わらず人々が暮らしていたことがよくわかりました。この博物館はもう一度訪れて、青梅をもっとじっくりと調べたいと思いました。



12万から13万年前。海が後退してきた。



6,000年前、現在に近い地形



河原の石の展示

石の識別方法が書いてありました。識別は難しい。説明版より。

- ・砂を固めたような石が砂岩。ルーペで見ると結晶の粒が詰まっていたら硬砂岩。
- ・粒は見え、クギで傷がつかず、貝殻状の割れ口が見えたらホルンフェルス
- ・表面がつるつるで、クギで傷がつかず、角の多い石はチャート。
- ・赤いチャートに似ているが、角がほとんどなく、クギで傷がついたら輝緑凝灰岩





イノシシ



カモシカ



日本狼の頭蓋骨



旧宮崎家住宅の縁側でのんびりくつろぐ西山さん



囲炉裏



湯を沸かして入る風呂ではなく体を洗う場所との事。シャワー室みたいなもの。



鮎美橋



ケヤキ



コナラ



柳淵橋を渡り、多摩川の左岸側を歩く



皇帝ダリア





万年橋



畑中神社。祭神はイザナミノミコト（女神）、イザナギノミコト（男神）、ヒコホホデノミコト、ハヤタマノオノミコト、タケハヤノスサノオノミコト、コトサカノオノミコトの6神を祀っているとの事。看板より。神話の神様の名前はなにやらわかりですね。

千木の水平（内剥ぎ）なのが女の神様でとんがっている（外剥ぎ）のが男の神様だと聞いたことがあるが、祀っている神様は男の神様も女の神様もいるようだが男の神様が多いようだ。

鯉木も偶数と奇数があるようだが、この神社は偶数で6本でした。



多摩川の右岸側の吉野街道を歩く。足取りが快調のようですね。



吉野街道沿いの高台にあった稲荷神社にお参り



芭蕉の句碑がありました。

梅が香に のっと日の出る 山路かな はせを翁

はせを翁は松尾芭蕉の尊称との事。看板より。

この一帯は吉野梅林で有名な場所であるのでこの句碑を建てたのでしょうか。中七ののっと日の出る…。のっと日の出るという表現が面白いですね。



青空に見事な皇帝ダリアが咲いていました。



手打ちうどんをいただきました。美味しかった。温かい豚肉の入った汁にとろろとかけていただきました。



ランチ後、うどん屋さんの近くにある吉川英治記念館に寄りました。入場料 500 円。



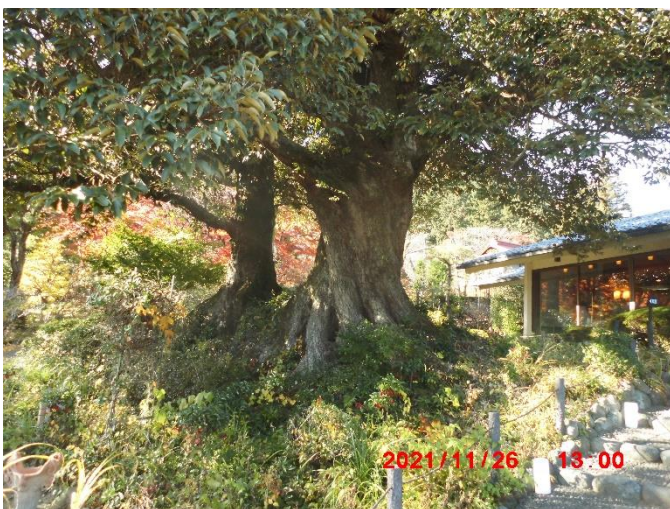
昭和 14 年頃、この旧家を購入して昭和 28 年頃までここに住んでいたという。豪農の建物の造りで養蚕をしていた家屋だと思いました。屋根が換気できるようなものになっていた。



明治初期に建てられた養蚕農家の建物



左手に大きな椎の木がありました。5 から 6 百年の樹齢だそうです。ここに毛氈を敷き、夫人のたてたお茶で好日を楽しんだそうです。看板より。右側正面が吉川英治の書齋。



椎の木



書齋



母屋の座敷の様様



河口から 67.2 キロ。奥多摩橋を渡り左岸側へ。





この奥多摩橋は平成 21 年 11 月に近代土木遺産に選定された。水面から高さ 33m、橋長 176m、ブレースドリップアーチ橋。

昭和 14 年 3 月に完成した。それまでは吉野村と三田村を結ぶ渡しがあったとの事。

看板より



奥多摩橋より上流を望む

奥多摩の本仁田山から高水山方向を望む

小倉さんは本仁田山に挑戦したが道が不鮮明で撤退したとか。



道路わきに咲いていた花の名前が浮かんでこない。ふつとしたきっかけで蘇りました。ホトトギスの花だ。



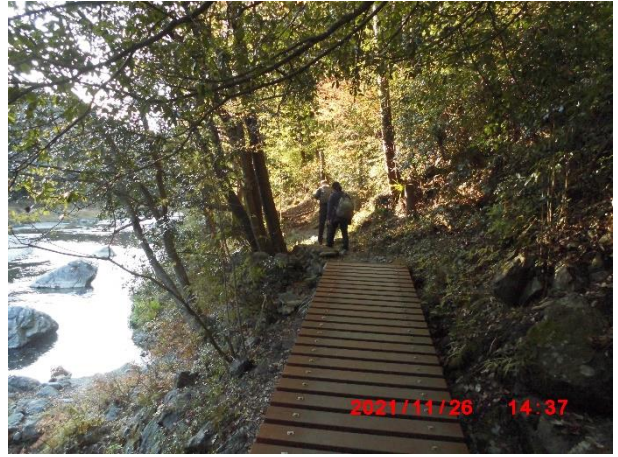
JR 二俣尾駅



青梅街道沿いを歩く



軍畑大橋



河口から 69 キロ地点。奥多摩溪谷の遊歩道に入る。



絶景ポイント

ここで西山さんは加藤さんにラインで写真を送る。



この河原の石は何であろうか。博物館での見本で比べて見るとチャートか。



楓橋



澤乃井園



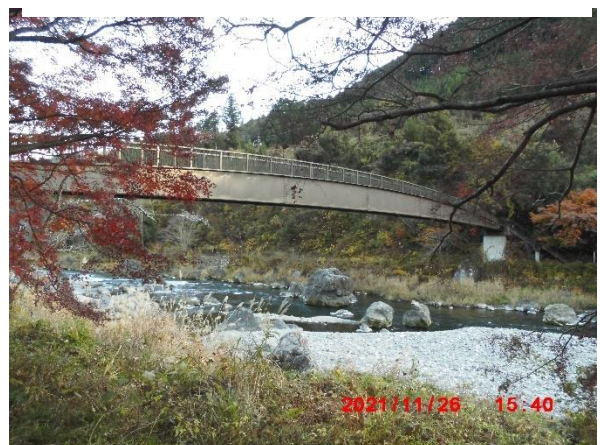
素敵なカフェで楓橋を眺めながらおしゃべりとコーヒーブレイク。



陽が沈んできた。御嶽駅へと向かう。



河口から 70 キロ地点



鵜の瀬橋



作曲した佐々木すぐる先生の生誕 100 年を記念して平成 9 年 3 月に建立された。看板より。よく知っている童謡で懐かしい。こんな出会いもありとても面白かった。





御嶽溪谷遊歩道の終点地。



河口から 71 キロ地点まで歩きました。



御嶽駅ゴール。15時57分。お疲れ様でした。